

計画的生涯研修でプロフェッショナル・ディベロプメントを —遅すぎない対応のために

内山 充

薬剤師業務の新しい局面として、病院においても地域の薬局においても、一昔前とは全く様変わりといえる変化が見られる。チーム医療の一員としての専門性の発揮、地域薬局における服薬マネジメントやプライマリケア支援、ジェネリック医薬品の適正な活用による医療経済への貢献、在宅医療をはじめとする地域医療への積極的参画など、患者ニーズと新しい医療提供体制に応じて、多様性と柔軟性が求められるようになった。このような変化に対して、単に受身で対応したり現状に満足したりすることなく、一人ひとりの薬剤師が、どのように備え何をなすべきか、そして自分には何が出来るかについて目標を定め、計画を立てる心構えが必要であろう。

しかし、どんなに優れた計画・目標でも、それが社会に浸透しなければ単なる創案に過ぎない。社会的に価値のある薬剤師業務を定着させるためには、社会を構成する人々の視点が不可欠である。仲間内の利益あるいは目前に迫った問題への対応のための方策でなく、自分自身が患者あるいは一般国民の立場に立って、将来に向かってどのような医療環境が望まれているのかを考え、その中で活躍する薬剤師像を自ら描いてみることによって、これからとるべき行動がおのずから決まって来よう。

『ケルン憲章』(1999)にもあるように、「生涯学習」と「教育」が、大きな変化に対処し課題を乗り越える柔軟性を得る唯一のパスポートであることは明白である。したがって、薬剤師にとって教育年限の延長とともに、生涯研修は必須であり、義務化される方向にあるといえる。最近では、薬剤師の生涯研修として、最新の知識と情報を伝達できる指導的研修プログラムや、特定の薬剤師実務領域での模範的実践法を習得できる計画的研修プログラムのような、新しい時代の薬剤師の自己研鑽に役立つ内容を持つ研修プログラムの提供が盛んになりつつあることは喜ばしい。今後も、優れた研修プロバイダーが、全国各地の薬科大学や職域団体から続々と生まれて欲しい。

近年着実に浸透している「患者による医療提供機関の選択」と同様に、「薬剤師の生涯研修受講者による研修プログラムとプロバイダーの選択」も必要となる。薬剤師は、自らの意欲と計画をもとに、目的に合致した研修計画を立てて、継続的に専門性の向上(プロフェッショナル・ディベロプメント)に心がけ、質の高い医療提供体制の確保に貢献できる資質を身につけて頂きたい。

薬剤師認定制度認証機構は、自己研鑽を目指す薬剤師に対して、受講すべき生涯研修プロバイダーを選択するに当たっての信頼性の高い情報を提供できるように、優れたプロバイダーを認証するなど、引き続き研修と認定の評価体制の整備に努めたい。

(2007.9.1)